

FAX 通信

2022年2月1日発行 No. 03-95 From KOTANI

ホームページ <http://www.kotanikk.com>

新シール概論 (2) 固定シール用補助材 (2)

・シーラントが塗布後硬化皮膜を作る過程
シーラントの成分によって異なり、①自然硬化 ②加硫剤による加硫硬化 ③高温で軟化し、液状になったものが使用時に低温で固まる、などいろいろあります。

なお加硫で硬化する合成ゴムを材料にしたシーラントは、硬化と同時に接着性があるので、シールとしてのみでなく接着剤の働きを兼ねたものが多い。

・作用から見たシーラントの分類

1. 硬化皮膜をつくるもの

- ①塗布後の加熱によるもの
- ②加硫剤を加えておき熱によって加硫硬化させるもの
- ③乾性油に合成樹脂を混ぜ、塗布後乾性油が酸素によって硬化する作用を利用したもの、があります。
加硫硬化のものは強力な接着力があり、弾性に富むので、屈曲、振動のある箇所に用いられます。

2. 粘着性をもち硬化皮膜を作らぬもの

合成ゴムに液状可塑剤を加えたものが多い、極めて低圧の接手などのシールに使われています。

3. テープ状のもの

合成樹脂の薄い皮膜やこれを布で補強したものがあがるが、これは簡単な穴やすき間の回り止めに使用されています。

4. 使用上の注意

- ①垂直面のシールには液状シーラントは不向きで、粘度の大きいシーラントを用います。
- ②接手部分で流動性のシーラントが使用できない時には、テープ状シーラントを用います。配管のねじの接手にはPTFEの生テープが多く使われるのは、PTFEは油、薬品に耐え、高温・低温でも変質せず、取扱いが容易のためです。

図2に接手にシーラントを使用した例を示します。

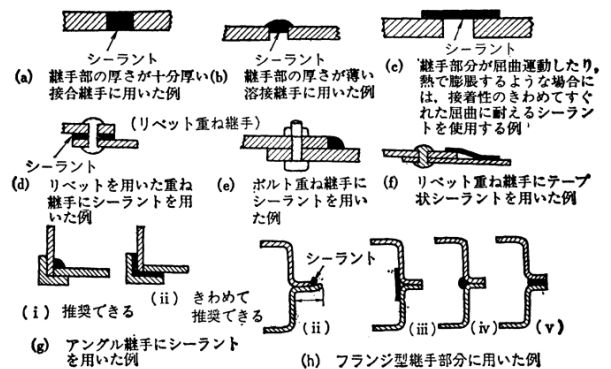


図2 接手にシーラントを使用した例

・ガスケットペースト

一般に、ガスケットペーストと呼ばれるものは、黒鉛や雲母を主材としてこれに油脂、皮膜剤、粘稠剤、分散剤、防錆剤などを混合し、ペースト状にしたものです。

液状ガスケットのような強い粘着力と弾性はないが、柔軟性と流動性があるためシーラントとして相応の機能を有しています。

・PTFEペースト

PTFEの粉末を水やふっ素オイルに分散し、粘稠剤や分散剤を添加したケミカル流体用のシーラントとして使用されます。

(続く)

取扱い製品について

NK リング：ふっ素ゴムをふっ素樹脂で被覆した画期的なOリング

コードリング：英国 NES 社の誇るふっ素ゴムつなぎOリング

TESNIT：スロベニア DONIT TESNIT 社製の高品質ジョイントシート

その他の各種シール製品

以上の詳細はホームページに記載していますので、是非ご覧ください。カタログや技術資料は、ご要望がございました下記の本社宛にご一報ください。

コタニ株式会社

本社：神戸市中央区浜辺通 2-1-30

TEL:078-251-5300 FAX: 078-251-5307